

I. 事業の基礎情報

事業名		市誌編さん事業		担当部・グループ名	こども未来部 文化スポーツグループ						
総合計画 (基本計画) 体系	個別目標	(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちの子カラを育みます									
	こんなことに取り組みます	市民とともにまちの魅力・自慢(歴史・文化・伝統・産業・景観など)を掘り起こし、守り、伝え、活かしていく活動を強化します。									
	みんなで目指すまちづくり指標名	ア. 高浜市に愛着・誇りを持っている人の割合 イ. 持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合									
	総合戦略	■該当する □該当しない		予算事業名		文化財保護事業					
	策定時の値	7.71	実績値	-	実績値	-	実績値	-	目標値	7.76	(単位)
	2017	1.29	2018		2019		2020		2021	1.35	%

II. 目指す姿

このアクションプランによって実現したい目指すべき市の姿	<p>☆先人たちのあゆみやまちへの想いを知ることができる資料を整理・保存し、人々の中にある記憶を記録にとどめ、貴重な資料等の散逸・消失を防ぐことができている。資料等が市民の共有財産として将来へ伝え、まちづくり等に活かされている。</p> <p>☆調査・執筆や普及活動に市民(子ども・若者を含む)が参加・参画し、市民のまちの魅力・自慢等を「知りたい」「調べてみよう」といった意欲が喚起され、「伝えたい」「住んでいるまちをよりよくしたい」といった輪が広がっている。</p>
-----------------------------	--

III. 課題

目指す姿実現に向けた課題	<p>①編さんに対する市民の興味、関心を高め、多様な世代の参加・参画を得ていくことが重要である。</p> <p>②新たに発見される資料や、郷土資料館所蔵資料の整理法と保存の方策を検討する必要がある。</p> <p>③調査等に参加・参画していただく市民の更なる発掘や育成を行うことが大切である。</p> <p>④この事業のことを広く市民に知ってもらうため、進捗状況や調査成果を発信する機会を増やす必要がある。</p>
--------------	---

【PLAN】

IV. 目指す姿の実現に向けた4年間の工程表・事業概要

事業年度	2018(平成30年度)	2019(平成31年度)	2020(平成32年度)	2021(平成33年度)	
事業計画	調査・編集・発行	資料整理、収録資料の抽出	資料整理	校正	
		資料調査・聞き取り調査	資料調査・聞き取り調査	印刷	
		調査・執筆への若者等の参画	調査・執筆への若者等の参画	本編刊行(12月)	
		本文執筆	本文執筆、校正		
		編集委員会、部会の開催	編集委員会、部会の開催	編集委員会、部会の開催	市誌資料(小冊子)の編集・発行
		小冊子発行	小冊子発行	小冊子発行	企画・普及 ↔ 活動と連携
	企画・普及	編さん委員会の開催	編さん委員会の開催	編さん委員会の開催	まるごと宝箱連携講座等の開催
		中間報告、まるごと宝箱連携講座等の開催	中間報告、まるごと宝箱連携講座等の開催	中間報告、まるごと宝箱連携講座等の開催	学校授業・地域学習での活用
		市民調査員の育成	市民調査員の育成	市民調査員の育成	美術館での資料展示
		美術館での資料展示 かわらシボジウム	美術館での資料展示	刊行記念シボジウム	美術館での資料展示
	市広報等での情報発信	市広報等での情報発信	市広報等での情報発信	市広報等での情報発信	
事業費総額(千円)	(当初) 15,421	(見込) 11,847	(見込) 10,345	(見込) 554	
財源内訳	一般財源	15,417	11,839	9,945	454
	特定財源	4	8	400	100
特記事項					

【DO】

IIIと対応する課題	V. 上半期の進捗状況 目標達成のために掲げた「課題解決に向けた取り組み」とその進捗状況
①	◆編集委員会において、より詳細な収録内容や執筆分担を検討し、調査・執筆を行う。
状況	部会及び専門分野に分かれ、市内外での資料調査・聞き取りを進めた。定期的に部会ごとの打ち合わせや部会長会議を行い、調査の進捗や方向性も確認しながら進めた。
①	◆名古屋市立大学や市民と連携して聞き書き調査を行い、成果を発表する。
状況	テーマ及び語り手の選定を行い、大学生と市民が協働で行う調査を実施した。今年度については「高浜市の窯業」をテーマに、4名の方に聞き取りを実施した。成果発表については12月を予定している。
②	◆各委員会での指導・助言をふまえて、資料の二次整理を進める。
状況	昨年度棚卸及びリスト作成した資料について、古文書専用箱及び封筒への入れ替えと、並行して写真撮影を行った。
③	◆「タカハマ！まるごと宝箱」の発表を市民が担うなど、市民調査員の育成を進める。
状況	「タカハマ！まるごと宝箱」上半期2回のうち、1回は市民が自分の学びについて発表を行い、市民同士が学び合う環境づくりを行った。また、資料調査の場において、資料内容や取り扱い方法などの説明を行い、文化財所有者の意識高揚と興味関心の向上に努めた。
④	◆「かわらシンポジウム」を開催するほか、中間報告会や「タカハマ！まるごと宝箱」との連携講座、広報による情報発信を定期的に行う。
状況	上半期に実施した「タカハマ！まるごと宝箱」は、市誌編さん事業の連携講座として実施した。また、広報の奇数月1日号には「市誌編さんだより」を、毎月1日号には今年度新たに「たかハマアーカイブ」の連載を開始し、編さんの進捗や成果のアウトプットに努めた。

【CHECK】

IIIと対応する課題	VI. 上半期の取り組みから見えてきた課題 目指す姿実現に向け、これまでの取り組みから見えてきた課題
①	最終的な収録内容を平成30年度の早い段階で固め、執筆活動へ移る必要がある。また、それに合わせて市外・県外の資料調査を計画的に実施する必要がある。
①③	市誌の調査へ積極的に参加していただけるような、新規の市民調査員の育成・発掘。
②	保管する資料を効率よく収納し、さらには資料の所在を明確にするため、資料収蔵スペースや資料リストの整備を行う必要がある。
④	事業の内容や成果を、より広く市民に知ってもらうため、進捗状況や調査成果を発信する機会を増やす必要がある。

【ACTION】

IIIと対応する課題	VII. 課題解決を踏まえた今後の具体的なアクション(案) いつ・何を・どのように・どうする	
①	平成30年度下半期	執筆要領の作成、編集委員会における収録内容の確定を行い、市外・県外調査については年度内に計画的に実施する。
	平成31年度	平成30年度までの調査成果を踏まえて、執筆活動を行う。
①③	平成30年度下半期	「タカハマ！まるごと宝箱事業」と連携し「市民同士が学び合い、語り合う」という形を意識しながら発表者やテーマを選定する。
	平成31年度	「タカハマ！まるごと宝箱事業」と連携し「市民同士が学び合い、語り合う」という形を意識しながら発表者やテーマを選定する。
②	平成30年度下半期	資料収蔵スペースに棚を設置し、これまで棚卸した資料は古文書専用箱・封筒へ収納する。それと同時に、資料リストの整備を行っていく。
	平成31年度	これまで棚卸した資料を古文書専用箱・封筒へ収納する。それと同時に、資料リストの整備を行っていく。
④	平成30年度下半期	広報やHPでの情報提供と共に、中間報告会やシンポジウムの開催、収録内容の一部を講座形式で行う取り組み、美術館展覧会との連携を図った資料の展示などを検討する。
	平成31年度	広報やHPでの情報提供と共に、中間報告会やシンポジウムの開催、収録内容の一部を講座形式で行う取り組み、美術館展覧会との連携を図った資料の展示などを検討する。
平成31年度 事業費予算	11,847千円	